

“V+完”と<V+オワル>の対照研究

A contrastive study of Chinese “V+Wan” and Japanese “V+Owaru”

時 衛国

要旨：本研究对汉语“V+完”和日语<V+オワル>进行对比研究，探索其相同点和不同点。汉语“V+完”作为终结局面表达形式多用于动作动词，修饰范围较广，所受限制较少。还可以表示动作、行为的先后完了顺序，可以重复使用。日语<V+オワル>多用于动作动词，表示动作过程 and 变化过程中的终结局面，但是所受限制较多，不能表示动作、行为的先后完了顺序。

キーワード：動作 過程性 終結 局面 対照研究

1、はじめに

終結の局面を表わす動詞は、中国語には“V+完(終わる)”があるが、日本語には<V+オワル>、<V+オエル>などがある(注1)。たとえば、

(1) 今天晚上，是我上电子琴课的时间，我刚刚吃完晚饭，老师就来了。(今夜は私がエレクトーンの授業を受ける時間です。私が晩ご飯を食べ終わった時、先生が来ました)

(<https://zw.kanguwen.com/350zi/86878.html>)

(2) 私が一口食べ始めたくらいの段階でもう食べ終わっている人がいた。(高知さんさんテレビ 2021/11/8(月) 18:53 配信)

(3) 陈女士告诉民警，她散完步回家时看到一名女子躺在路边，身边还有一个小女孩。(陳さんは警察に、散歩が終わって家に帰ったとき、女性が道端に横になっていてそばに女の子がいたのを見たと話した)(《現代快报》2019年9月12日)

(4) a*陳さんは警察に、散歩し終わって家に帰ったとき、女性が道端に横になっていて、そばに女の子がいたのを見たと話した。

b 紗栄子は散歩が終わると「ファームでドッチボールがしたい」と語った。(2021/11/25. yahoo JAPAN)

この中で、(1)は、「吃(食べ)+完(終わる)」という形で、食べ終わっているという状態を表わしていると同時に、動作過程における終結の局面を示唆している。一方、(2)は「食+終わる」という形で食事が終わっていることを表わしていると同時に、動作過程における終結の局面も表わしている。この二者は、動作過程における終結の局面を表現することができるという点では大体共通している。ところが、(3)は、「散+完+歩(散歩が終わる)」という形で、散歩が終わっていることを表わしている。それに対し、(4)ではaの「散歩し終わる」のように表現することができず、bのように「散歩が終わる」と表現しなければならない。(1)における「完(終わる)」と(2)における「終わる」とは、大体対応するものと考えられるが、(3)における「完(終わる)」と(4)における「終わる」とは違っている。

本研究は“V+完(終わる)”と<V+オワル>について、これまでの先行研究を踏まえながら対照言語学的に考察することとする。この二つの構造は、それぞれどのような種類の動詞と共起し、どのような種類の動詞とは共起することができないのか、それぞれがどのような制限を受け、どのような文法的特徴を持っているのか、などについて分析し、その共通点と相違点を究明することとする。

2. 先行研究

“完(終わる)”については、《現代汉语八百词》(1984)、《动词用法词典》(1987)、胡裕树 范晓主编(1995)、《现代汉语虚词词典》(1998)などには記述はない。

《現代汉语八百词》(1984)では、動作過程を表わす動詞について、“开始(始める)”、“继续(続ける)”については目的語を取れるとしている(P258、P294、P295)が、“完(終わる)”については取り上げられていない(注2)。一方、《動

詞典》(1987)では、“开始(始める)”、“继续(続ける)”については、「動詞＋目的語」の構造に用いられる(P362、P431)と述べているが、“完”については述べられていない。たとえば“开始竞争(競争し始める)”、“开始活动(活動し始める)”(P431)、“继续看书(読書し続ける)”、“继续工作(働き続ける)”、“继续做研究(研究し続ける)”、“继续打扫(掃除し続ける)”、“继续生产(生産し続ける)”、“继续试验(実験し続ける)”(P362)などがそれぞれある。

中国語では“开始(始める)”、“继续(続ける)”を普通の動詞として分類し、“开始劳动(働き始める)”、“继续宣传(宣伝し続ける)”を「目的語＋動詞」という構造として分析している。

关玲(2003)では“V＋完”の文法的意味と特徴、それと“V＋了”との相違について考察している。“V＋完”は、単純に完成体を表わすものであり、持続の過程の終結をを表わすが、これといった結果を表わさない。よく範囲副詞の“都(みな)”、“全(全く)”と共起し、“V＋完”に用いられる動詞は持続的なものでなければならない。時間帯の面では行為が始めから終わりまでの全過程の時間を表わしているが、時点の面では終了の時刻を表わしているとしている(同 P230)。氏の考察は“V＋完”に用いられる動詞には持続性を持つことが前提だと述べた点については評価できるものであるが、過程性を持つかどうかについての指摘はなされていない。

<V＋オワル>については、国広哲弥(1982)、『日本語教育辞典』(1982)、森山卓郎(1983)、仁田義雄(2009)、黄軼男(2016)などがある。国広哲弥(1982)編『ことばの意味3』では、<V＋オワル>については「動作の終了を表す」とし、その特徴として予定の行為の終了を表わすので、自然現象の<終了>については用いられないと述べている(同 P85－86)。『日本語教育辞典』(1982)では、「継続動詞に付いて、終了の意を表すが、その終了は予想されているという感じを伴う。人の関与し得ないような自然発生的現象には用いられない。」(同 P372)としている。森山卓郎(1983)では、終結性という概念を唱え、<V＋オワル>をその表現形式として挙げられている。

寺村秀夫(1984)では、三次的アスペクト形式として、「～始める」「～続ける」「～終わる」を挙げて、開始を表わす形式に比べると、継続を表わす形式、更

に終了を表わす形式は非常に制限されていると述べている(同 P178)。これは～タという一次的アスペクト、～テシマウという二次的アスペクトがないため、～ハジメルなどの三次的形式が利用されるのだと述べている(同 P179)。仁田義雄(2009)では、「～ハジメル」「～ツツケル」「～オウル」をアクシオンスアルトを表わす表現形式として挙げられており、それぞれ始動相・継続相・終結相の表現に用いられるという指摘はなされている(同 P288-290)。黄軼男(2016)では、「～おわる」の前項動詞は、継続動詞の主体動作動詞であり、他動詞が多く、継続動詞の主体変化動詞(無限界動詞)は、通常「～おわる」形を使わないと述べている(同 P45)。

上記の文献をまとめると、<V+オウル>は動作の終了、予定の行為の終了を表し、自然現象の終了を表さないが、終結性を持っているのであるが、なぜ自然現象の終了を表さないのかについてはあまり述べていない。

一方、中国語の“V+完(終わる)”と日本語の<V+オウル>(注3)については、張麗華(1985)、黄文溥(2005)などがある。張麗華(1985)では、中国語の“V+完(終わる)”と日本語の<V+オウル>について対照研究の立場から考察し、動作・作用の終了を表すことができるという点では、両語は共通しているが、動作、作用の完了を表すことができるという点では“V+完(終わる)”は<V+オウル>と異なっていると指摘している(同 P27)。

黄文溥(2005)では、<V-終わる>と“V完”について語彙対応の観点から考察しており、参考になるものである。日本語の<V-終わる>についても、中国語の“V完”についても、持続性を持つことが前提だとしている点は、上記の关玲(2003)とは全く同じである。実際には、持続性を持っていても過程性を持たないと、終結の局面を持たないのである。氏は、“V+完(終わる)”と<V+オウル>との共通点と相違点についてはかなり述べてはいるものの、さらに考察する必要性も痛感している。

3. 分析

3. 1. 動作過程と変化過程の終結

動作過程と変化過程における局面については、両言語には、それぞれ動作過程と変化過程を表わす動詞があり、しかも始動・継続・終結の各局面につ

いても共通している。それで、対照研究を行なうことができる。

動作過程の局面を示すと、①のようになる。

①動作過程	：始動の局面	継続の局面	終結の局面
	开始吃	继续吃	吃完
	食べ始める	食べ続ける	食べ終わる

状態変化の局面を示すと、②のようになる。

②変化過程	：始動の局面	継続の局面	終結の局面
	杂草 开始燃烧	继续燃烧	燃烧完
	雑草が 燃え始める	燃え続ける	燃え終わる

両言語の動作過程と変化過程における各局面は、該当の動詞によって表現することになる。以下、その具体的な用法について分析する。

3. 1. 1. “V+完(終わる)”

“V+完(終わる)”は動作・行為や変化などを表わす動詞に付いて、動作の過程や変化の過程における終結を表現することができる。たとえば、

(5) 吃完饭，出去散步。(ご飯を食べ終わってから散歩に出かける)

(6) 茶卡盐湖现在冰化完了。(茶卡盐湖は今氷が溶け終わっている)

“V+完(終わる)”は(5)で“吃(食べる)”という動詞に接続し、食事の終結の局面を表わしているが、(6)では“化(溶ける)”という動詞に接続し、固体が液体になるまで溶けてしまっていたという状態の終結の局面を表わしている。

つまり、(5)は“开始吃饭(ご飯を食べ始める)”という動作の始動の局面と“继续吃饭(ご飯を食べ続ける)”、“吃着饭(ご飯を食べている)”、“继续吃着饭(ご飯を食べ続けている)”、“在吃饭(ご飯を食べている)”、“正在吃饭(今ご飯を食べている)”、“正在吃着饭(只今ご飯を食べている)”という継続・連続や持続などの局面などに対して、動作・行為が終了するという終結の局面を

表わしている。

ある動作や行為、変化などの過程における終結の局面を表わすのが“V+完(終わる)”である。“V+完(終わる)”は始動、継続の局面に対する終結の局面を表わすものと考えられる。

“吃(食べる)”のように始動・継続・終結の三局面を有している動詞は、他に、以下のようなものが挙げられる。

喝(飲む) 玩(遊ぶ) 看(見る) 听(聞く) 说(話す) 读(読む)
写(書く) 译(訳す) 搞(やる) 做(する) 拆(折る) 切(切る)
砍(たたき切る) 劈(割る) 剁((包丁で)叩く) 挂(掛ける) 刷(刷
る) 漂(漂う) 涂(塗る) 送(送る) 拉(引く) 想(思う) 生产
(生産する) 翻译(翻訳する) 安装(取り付ける) 检查(検査する)
采购(購入する) 贩卖(販売する) 布置(手配する) 抄写(写す)
调动(移動する) 调度(管理し調整する) 锻炼(鍛える) 分析(分析
する) 分配(分配する) 观察(観察する) 计算(計算する) 记录
(記録する) 解决(解決する) 交渉(交渉する) 交代(言い付ける)
交換(交換する) 介绍(紹介する) 解释(解釈する) 排列(順序よく
並べる) 派遣(派遣する) 盘问(尋問する) 说明(説明する) 搜查
(捜査する) 谈论(議論する) 讨论(討論する) 挑选(選ぶ) 委托
(委託する) 协商(協議する) 修理(修理する) 叙述(叙述する)
选择(選択する) 学习(学習する) 照顾(優遇する) 争吵(言い争
う) 争论(論争する) 指定(指定する) 指导(指導する) 指挥(指
揮する) 准备(準備する)

この種類の動詞は、動作、行為などを表わす動詞がほとんどであり、様々な動作や行為などの描写に使用されている。

“化(溶ける)”のように、変化過程の三局面を有している動詞は、他に以下のものが挙げられる。

着(燃える) 噴(吐き出す) 冒(吐き出す) 滴(滴る) 漏(漏れる)
淌(流れる) 流(流れる) 沉(沈む) 长(生える) 出(出る) 下(下

す) 刮((風が)吹く) 滲(にじむ) 退(退く) 沉淀(沈殿する) 燃
烧(燃烧する) 渗透(浸透する)

この種類の動詞は状態や現象などを表わす動詞が多く、変化過程の想定で
きる内容を表わすことになる。

上述の動作過程と変化過程を含む動詞は、動作・行為の終結の局面を表わ
したり変化の終結の局面を表わしたりするという点では異なっているが、い
ずれも始動・継続・終結という三局面を保有しているという点ではほぼ同じ
である。動作過程と変化過程を共に保有しているからこそ、はじめて終結の
局面を表現することができるのである。始動・継続の局面がないと、終結の
局面が到底想定できないのである。

一方、“V+完(終わる)”という構造を取れない動詞もある。たとえば、

(7)*饿完肚子。(「おなかが空く」の意)

(8)*他怨完我。(「彼は私を恨む」の意)

“饿(おなかが空く)”は、“开始饿肚子(おなかが空き始める)”、“继续饿肚
子(おなかが空き続ける)”のように、変化の始動と継続の局面からなる変化
の過程を持っているので、“开始(始める)”、“继续(続ける)”とは共起するこ
とができるが、“V+完(終わる)”という構造とは共起することができない。そ
れに対し、“怨(恨む)”は“*他开始怨我(「彼は私を恨む」の意)”、“*他继续怨
我(「彼は私を恨む」の意)”のように、始動・継続・終結の局面のいずれも表
現することができない。つまり、“饿(おなかが空く)”は空腹になる状態を表
わす動詞として、始動と継続の局面しか持たないのに対し、“怨(恨む)”は心
理的状态を表わす動詞として、まったく動作過程の想定ができないというこ
とである。

このように動作過程における始動、継続、終結の三局面を持つ動詞もあれ
ば、始動、継続の二局面を持つ動詞もある。始動、継続、終結の三局面を持
つ動詞は、動詞の中核をなすものであり、動作、行為の表現を担っているも
のと考えられる。

3. 1. 2. <V+オウル>

<V+オウル>は、動作や行為、変化などを表わす動詞に付いて、動作過程や変化過程における終結の局面を表現することができる。たとえば、

(9) 食べるスピードには個人差があり、食べ終わると眠くなってしまう子もいる。(2021/12・10 YAHOO JAPAN ニュース)

(10) (入浴剤が)溶けている間は乳白色でしたが、溶け終わるころには透明になりました。(2021/10/31 YAHOO JAPAN ニュース)

<V+オウル>は、(9)では「食べる」という動作過程における終結の局面を表わしているが、(10)では、「(入浴剤が)溶けてしまう」という変化過程における終結の局面を表わしている。この点では中国語の“V+完(終わる)”とほぼ同じである。

「食べ終わる」は、「食べ始める」という動作の始動の局面と「食べ続ける」という動作の継続の局面に対して、動作過程における最後の局面である動作の終結の局面を表わしている。それで、「食べる」のような動詞は動作過程における全局面を持っているため、始動・継続・終結の各々の局面を表わす複合動詞と共起することができる。

一方、「溶け終わる」は、「溶け始める」という固体の変化の始動の局面と「溶け続ける」という固体の変化の継続の局面に対して、「溶けてしまう」という変化の終結の局面を表わしている。「溶ける」も変化過程における全局面を持つ動詞として、各々の局面の表現形式を受け入れることができる。

ところが、下記の中国語の動詞に対応すると見られる日本語の動詞は、<オウル>とは共起することができない。

たとえば、

生産(生産する)、翻译(翻訳する)、安装(取り付ける)、检查(検査する)、采购(購入する)、贩卖(販売する)、布置(手配する)、抄写(写す)、调动(移動する)、调度(管理し調整する)、锻炼(鍛える)、分析(分析する)、分配(分配する)、观察(観察する)、计算(計算する)、记录(記

録する)、解決(解決する)、交渉(交渉する)、交代(言い付ける)、交換(交換する)、紹介(紹介する)、解釈(解釈する)、排列(順序よく並べる)、派遣(派遣する)、盤問(尋問する)、説明(説明する)、捜査(捜査する)、谈论(議論する)、讨论(討論する)、挑选(選ぶ)、委托(委託する)、协商(協議する) 修理(修理する)、叙述(叙述する)、选择(選択する)、学习(学習する)、照顾(優遇する)、争吵(言い争う)、争论(論争する)、指定(指定する)、指导(指導する)、指挥(指揮する)、准备(準備する)

に対応すると見られる

「生産する」「翻訳する」「取り付ける」「検査する」「購入する」「販売する」「手配する」「写す」「移動する」「管理し調整する」「鍛える」「分析する」「分配する」「観察する」「計算する」「記録する」「解決する」「交渉する」「交代する」「交換する」「紹介する」「解釈する」「順序よく並べる」「派遣する」「尋問する」「説明する」「捜査する」「議論する」「討論する」「選ぶ」「委託する」「協議する」「修理する」「叙述する」「選択する」「学習する」「優遇する」「言い争う」「論争する」「指定する」「指導する」「指揮する」「準備する」

などは、<V+オウル>とは共起することができない。

この種類の動詞は、動作の始動性・継続性を持つものの、終結性を想定しにくいので、終結の局面を表現することができない。たとえば、「生産し始める」「翻訳し始める」「取り付け始める」「検査し始める」や「生産し続ける」「翻訳し続ける」「取り付け続ける」「検査し続ける」のように、始動の局面と継続の局面を表現することはできるが、「??生産し終わる」「??翻訳し終わる」「??取り付け終わる」「??検査し終わる」のように、終結の局面を表現することはできない。これらの二字漢語動詞は、確定的な意味とはっきりしたイメージを持っているため、普通は<V+オウル>とは共起することができない。その代わりに、「生産が終わる」「翻訳が終わる」「取り付けが終わる」「検査が終わる」のように、「名詞+助詞が+終わる」という形式で表現することになる。一方、類義語の

和語動詞であれば、相対的な意味を有する柔和な感じのある語は、<V+オウル>と共起することができる。たとえば、「作る」という動詞は、「生産する」という語の類義語と思われるが、動作の始動・継続・終結の局面のいずれも持っているため、「作り始める」「作り続ける」のような始動・継続の表現はもとより、「作り終わる」のような終結の局面も表現することができる。又、「する」「やる」なども始動・継続・終結の局面を持つ動詞として、それぞれの局面の表現形式を受け入れることも可能である。たとえば、「し始める」「し続ける」「し終わる」「やり始める」「やり続ける」「やり終わる」などがそれである。

ここから考えると、二字漢語動詞は確定的な意味を持つという一方、その意味的側面に束縛されていることもあり、終結の局面は表現することができないと言える。つまり、二字漢語動詞は意味と音節の影響を受けているため、中国語におけるような終結の局面を表現することができない。

また、上記の動きが表面に現れる動詞は、動作・行為を表わしているため、過程性を持っていることも容易に想定できる。その過程性は始動・継続・終結の局面によって表現することができる。たとえば、「見る」「書く」「話す」「食べる」などの動詞は、いずれも動きが表面に現れる動詞であり、始動・継続・終結の各局面を「V+ハジメル」「V+ツツケル」「V+オウル」によってそれぞれ表現することができる。それに対し、動きが表面に現れない二字漢語動詞は、その意味と音節に束縛されていることもあり、「V+オウル」によって終結の局面を表現することができない。また、二字漢語動詞は、サ変動詞として、その語幹(名詞)もあるため、「名詞+ガ+オウル」という表現ができることも関係があると思われる。

また、「過ごす」「通う」のような動詞は、「V+オウル」と共起することができないが、それに対応する中国語の“过(過ごす)”“上(通う)”などは“V+完(終わる)”と共起することができる(注4)。

過程性を持つ動詞は、始動・継続・終結の局面によって表現することができるが、意味的にも音節的にも多くの制限を受けているため、「-オウル」と共起することのできない動詞も数多くあり、共起範囲が中国語に比べて狭いと言えよう。

3. 2. 動作・行為の完了

3. 2. 1. “V+完(終わる)”

“V+完(終わる)”は、動作や行為、状態の終結を表わすだけでなく、動作や行為、状態の完了も表わすことができる。動作や行為の完了を表わす場合は、複数の動作や行為が継続して行われることになる。

(11) 今天我早早的起床, 洗完脸, 刷牙, 吃完饭就上学去了。(今日、私は早く起きて、顔を洗い、歯を磨がき、ご飯を食べて登校した)(〈我的一天-豆丁网〉2013. 5. 8)

(12) 周末洗完衣服, 收拾完屋子, 打扫完卫生, 心情也跟着好起来!(週末、洗濯や部屋の整頓と掃除が終わると、気分もよくなってきていた)(百度快照 2018. 7. 15)

“V+完(終わる)”は、(11)では、顔を洗い終わったり歯を磨き終わったりご飯を食べ終わったりして通学するというのではなく、顔を洗ったり歯を磨いたりご飯を食べたりして登校するということを表わしているが、(12)では、洗濯や部屋の整頓・掃除の終結を強調するのではなく、洗濯や部屋の整頓と掃除という一連の動作を継続して終わらせているので、気分もよくなってきていたということを表わしている。この場合は、洗濯や部屋の整頓・掃除という三つの動作が完了していることだけを表わし、それぞれの過程については問題視されていないと言える。

幾つかの動作や行為などが継続して行われるときには、“V+完(終わる)”は動作、行為の過程の終結に焦点を合わせるのではなく、動作、行為の完了を表わすことになる。というのは、二つあるいはそれ以上の動作、行為について時間軸的に進行しているため、その過程における終結の局面ではなく、各種の動作や行為の完了を表わすからである。

この点については、張麗華(1985)の指摘は正しいと言えようが、さらに深く考察する必要があると考えている。この完了の意味は動作や行為の過程における終結の意味から来ているものと思われ、この場合は複数の動作や行為が継続して行われるため、その動作や行為の過程には着目せずに、その複数

の動作や行為の継起に焦点を合わせていることになる。言い換えると、その動作の過程は想定できるものの、描写の焦点は動作や行為、変化の継起に合わせており、その複数の動作や行為の完了した状態を強調している。それで、一つの動作や行為などの終結を表わす場合は、その動作の過程に焦点を合わせてその最終の段階における局面を表わすことになるが、二つ或いはそれ以上の動作や行為などを継続して表現する場合は、その複数の動作や行為などの完了を表わすことになる。つまり、複数の動作や行為が継続して行なわれるため、前の動作の完了による後の動作の継起を強調するのがその文法的特徴と言える。

3. 2. 2. <V+オワル>

<V+オワル>は、動作や行為、変化の完了を表わすことができない。特に幾つかのセンテンスが継起的関係を持つ場合は、使用することができない。たとえば、

(13)??今日、私は早く起きて、顔を洗い終わり、歯を磨がき終わり、ご飯を食べ終わって登校した

(14)??週末、洗濯をし終わり、部屋の整頓をし終わって、掃除をし終わると、気分もよくなってきていた。

<-オワル>は、(13)のようにセンテンスが継起的関係を持つ場合は、継続して使用することができないし、また、(14)のようにセンテンスの一部として用いられる場合にも使用することができない。継起的関係を持つ場合は、動作過程における終結の局面を問題とせず、二つあるいはそれ以上の動作の継起に視野があるからであるが、センテンスの一部として用いられる場合は、動作の過程における終結の局面を表わす部分と他の部分との内容が矛盾するからである。

<-オワル>は動作の過程に着目して、その終結の局面を表わすことになるため、複数の動作や行為などが継続して行われる場合は、使用することができない。(13)(14)のように複数の動作が相次いで行われる場合は、動作の過

程における終結の局面を表わすわけではないため、<V+オウル>は使用することができない。日本語では、普通一つの動作や行為についてその動作や行為の過程の最終的段階にあることを表わすことになるが、二つ或いはそれ以上の動作や行為が継続して行われる場合は、各動作や行為の過程に焦点を合わせることができないため、<V+オウル>は複数の動作や行為の完了を表わすことができない。

<V+オウル>は複数の動作や行為などを同時に捉える機能が与えられていないため、このような場合には登場することができない。もし(13)(14)を、「今日、私は早く起きて、顔を洗い、歯を磨がき、ご飯を食べて登校した」「週末、洗濯をして、部屋の整頓をして、掃除をすると、気分もよくなってきていた」のようにすると、センテンスは成立する。この点について張麗華(1985)でも触れられているが、その理由については述べられていない。複数の動作や行為などが継続して行われることになるため、それぞれの具体的な過程には焦点を合わせることができず、各動作・各行為の継起だけに着目することになる。日本語では、一つの動作ではなく、それぞれの動作や行為の過程を捉えることができない。動詞の連用形や接続助詞の「テ」を使って、その連用の機能を果たすことができる。複数の動作や行為が継続して行われるため、その継起に焦点を合わせているからとも考えている。

このように<-オウル>は、複数の動作や行為が継続して行われる場合は、使用することができないという点では、中国語の“V+完(終わる)”と大きく異なっている。

4. まとめ

動作や行為、変化などの過程における終結の局面を表現し、始動の局面と継続の局面より制限を受けているという点では、両言語は大体共通しているが、多くの二字語動詞に付いて終結の局面を表わすことができるし、また二つ或いはそれ以上の動作や行為が継続して行われる時に、完了の意味を表わすことができるという点では“V+完(終わる)”は<V+オウル>と大きく違っている。

“V+完(終わる)”は一つの動作や行為、状態の変化についてその過程にあ

ることを強調することができるが、始動の局面と継続の局面より制限が多く、過程性を持つ動詞に付いて、はじめて終結の局面を表わすことができる。また二つ或いはそれ以上の動作や行為が継続して行われる時には、その動作の完了を表わすこともできる。

<-オワル>は動作や行為、状態の変化の過程における終結の局面を表わすことができるが、始動の局面と継続の局面より共起範囲が狭く、多くの制限を受けている。始動・継続・終結の三局面を持つ動詞でなければ、<-オワル>は使用することができない。また、複数の動作や行為の完了を表わすことができない。

注

- 1、これらの動詞は本動詞として用いられる他、補助動詞として用いられることもある。本研究では本動詞としての用法を除外し、その補助動詞としての用法だけを取り上げる。
- 2、“完(終わる)”については、どの文献にも取り上げられていないが、“吃完(食べ終わる)”“喝完(飲み終わる)”のように動詞述語の後に用いられているため、補語として扱われていると考えられる。
- 3、<オワル>の類義語には<オエル>があるが、本研究では<オワル>だけを取り上げ、<オエル>は取り上げないこととする。
- 4、この点については、黄文溥(2006)でも述べられているので、参照されたい。

文献目録

中国語

北京大学中文系 1955・1957 级语言班编(1982)《现代汉语虚词例释》商务印书馆

戴耀晶(1997)《现代汉语时体系统研究》浙江教育出版社

房玉清(1992)《实用汉语语法》北京语言学院出版社
关玲(2003)〈普通话“V+完”式初探〉《中国语文》第3期(总第294期)
胡裕树 范晓主编(1995)《动词研究》河南大学出版社
黄文溥(2006)〈日语“V-終わる”和汉语“V完”式〉《华侨大学学报(哲学社
会科学版)》第三期
吕叔湘主编(1984)《现代汉语八百词》商务印书馆
石毓智(2006)〈论汉语的进行体范畴〉《汉语学习》第三期
孟琮等(1987)《动词词典》商务印书馆
王学群(2007)『中国語の“V着”に関する研究』白帝社

日本語

奥田靖雄(1977)「アスペクトの研究をめぐって—金田一的段階—」『宮城教育
大学国語国文』8
小田由美(1986)「局面動詞「～はじめる」について」『国語研究』第4号(横浜国
立大学)
金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のア
スペクト』むぎ書房
黄軼男(2015)「局面動詞「～おわる」について」『連語論研究』第IV号
工藤真由美(1982)「シテイル形式の意味記述」武蔵大学『人文学会雑誌』134
号
呉鐘烈(1995)「アスペクトと局面動詞」『日本語と日本文学』第19号
時衛国(2020)「“开始+V”と<V+始める>の対照研究」『外国語研究』53号
須田義治(2010)『現代日本語のアスペクト論』ひつじ書房
高橋太郎(2003)『動詞九章』ひつじ書房
張麗華(1985)「日本語の「シオワル」と中国語の「完」について」『語文』46号
寺村秀夫(1984・2003)『日本語のシンタクスと意味』II くらしお出版
仁田義雄(2009)『日本語の文法カテゴリをめぐって—仁田義雄日本語文法著
作選第1巻』ひつじ書房
廖紋淑(2005)「局面動詞「～始める」、「～続ける」、「～終わる／～終える」と内
的狀態動詞との共起関係についての記述的研究」『ことばの科学』第18

号

時衛国/SHI WEIGUO/ジ エイ コク

山東大学外国語学院、同人文社会科学青島研究院特任教授

元愛知教育大学外国語教育講座・日本語教育講座教授